

新シリーズスタート

「自己学習能力を身につけよう」－学習の3段階理論(1)－ 小冊子「自己学習能力を身につけよう」刊行にあたって

開倫塾は、塾生の皆様が開倫塾で勉強している間に、一生涯の使用に耐える効果の上がる学習方法を少しでも多く身につけ、自分自身の夢や願いを果たして頂きたいとの願いから、1979年に開設されました。

また、誠に僥越ではありますが、保護者や地域社会の皆様にも、この社会に生きる者としての自分なりの勉強方法を身に付け、充実した一生を全うして頂きたいとの願いを持ち、企業として様々な社会活動を行わせて頂いております。

この小冊子「自己学習能力を身につけよう」は、開倫塾の学習についての基本的な考え方である。「理解」→「定着」→「応用」について、できるだけ詳細にその内容を皆様に明らかにするためにつくられたものです。積極的なご活用を希望いたします。

以上

原稿

「自己学習能力を身につけよう」 －学習の3段階理論をマスターしよう－

開倫塾

塾長 林 明夫

自己学習能力を身につけるとは

Q: 「自己学習能力を身につける」の「自己」とは、どのような意味ですか。

A: (林明夫: 以下省略) 「自分で学習する力を自分のものとして持つ」ということです。

学習は、新しいものを知ろうという知的好奇心を満たすためと同時に、自分の基本的な能力を強化するために行うものだとは私は考えます。ですから、学習にとって最も大切なことは、「自己」つまり「本人」の「自覚」であります。

学習にとって大切なのは、「自己学習能力」の「自己」のところですか。「学習」するのは「自分自身」で、学習するときは自分自身が何のために学習するのか、つまり学習する目的をよく「自覚」することが、高い教育成果を生みます。

Q: 「自覚」について、もう少し詳しく説明してください。

A: 高い「教育成果」を生み出すのは、学習する人本人の「自覚」であるということです。

「自覚」するというのは、何のためにこの学習をするのかという目的をはっきり持つということです。何かものごとをするときには、何のためにこのことをするのかという、自分で今行っていることの意味、目的をはっきりしたほうが、ただ何となく何も考えずに仕方なくやっているよりは、よりよくできます。

例えば、今私は、皆様に少しでもよいので勉強の仕方をマスターしてもらい、よりよい人生を歩

み続けてもらいたいとの一心からこの文章を書かせて頂いております。もしも、誰かに頼まれて仕方なく書いているのでしたら、皆様に勉強の仕方を十分にお伝えすることは難しいと思います。

学習をするときも同じで、何のためにこの学習をするのかをよく「自覚」して、その目的をはっきりさせればさせるほどよい結果が出ると私は確信します。

Q：では、お尋ねします。人間は、何のために学習するのですか。

A：二つの理由があると私は考えます。

一つは、新しいことを知りたいという、人間がもともと持っている知的欲求を満たすために学習するのだと考えます。

もう一つは、一度知ったことの中で必要なことを身につけるため、つまり自分の能力を強化(能力強化)するために学習するのだと考えます。

Q：新しいことを知りたいという知的欲求は、人間だけにあるのですか。

A：ジャーナリストの立花隆氏の以下の文章をしばらくご熟読ください。

「知的欲求はヒトだけにあるかというとは実は低いレベルですべての動物にあるということも言えるんです。ペットを飼っておられる方はみなさんご存じだと思いますけれど、たとえば猫を、いままでその猫が行ったことのない家に連れていくとします。そうするとその猫は、必ず部屋の中を一回りしますね。あっちを嗅いだり、こっちを嗅いだりしながら一周します。これはサルを新しいオリに入れてもそうなんです。動物を新しい環境に入れると、その動物はまず、そこがどういう環境かを知るために、調べ回るんです。自分を取り巻く環境というものを覚えておきたい。これはすべての動物の基本的な欲求なんです。

動物までいなくても、たとえば、アメーバだって、新しい環境に入れると、必ず触手をあっちこっち伸ばして、その環境のケミカルな条件というものを調べるわけです。つまり、人間の持つ「知的欲求」の根本にあるのは、実はアメーバですら持っている、周囲の環境を知りたいという欲求なわけです。自分が存在している世界というのはどんな世界であるのか、それを知りたいということなんです。

生物というのは、周囲の環境と、いろんな物質や情報を交換することによってはじめて生き続けることができます。だから、自分を取り巻く世界、環境がどのようなものなのかを知りたいというのは、生きるために必要だから知りたいわけで、食欲や性欲と同じように、ちゃんとした存在根拠を持った欲求のわけです。周囲の世界を知ることによって、その生物はよりよく生きることができる。よりよく生きるというのは、自分を取り巻く世界に対してより適応して生きることができるということです。ですから、(純粋)知的欲求というと、何か人間に固有の欲求のように思えるけれど、そうではなくて、これはすべての生物が持つ本能に基づいた、根源的で、しかも、強烈な欲求であるということが言えると思います。」

※以上、立花隆著「ぼくはこんな本を読んできたー立花式読書論、読書術、書齋論ー」文春文庫、文藝春秋社、1999年刊(514円) P29～P30より引用。

長い引用で恐縮ですが、新しいことを知りたいという欲求は、人間だけではなく、動物も、また、微生物のアメーバですら持っている、つまり生あるものはすべて持つ根源的で、しかも強烈な欲求であるようですね。

Q：「自覚」を持つためには、具体的にはどうしたらよいのですか。

A：1～2年後の目標と、とりあえずの身近な目標を具体的にお持ちになることです。

まずは、毎授業の確認テストで100点を取ること。次に、中間テストや期末テストなど出題範囲が決まっているテストで、とりあえずは取り組みやすい、つまり勉強しやすいまたは好きな科目だけでもよいので100点を目指すこと。不得意科目で100点を取ることが大変ならば、とりあえず再テストを受けなくても済む合格点を取ること。まずはこのように身近なところに目標を持ち、「自覚」を持って学習することです。

1～2年先の、上の学校への入学試験に合格するという目標も、「自覚」を持って学習するのにとても役立ちます。

できれば、どのような一生を送りたいかという人生の目標や夢をお持ちになり、そのために今どのようなことを学ぶべきかをお考えになると素晴らしいと私は思います。

Q：一生をどのように、つまり自分の人生をどのように過ごすかなどを考えたことはありませんが…。

A：小学校の高学年生、中学生、まして高校生は、ものごとを自分で考える力があるのですから、是非真剣にお考えください。

日本は世界一の「長寿」国、つまり「長生きのできる国」になりました。おそらく、現在10代の皆様は、自己管理、つまり自分自身で健康管理のできる方法さえ身に付ければ100歳以上まで生きられる方が大半ではないかと私は考えます。「幸福」とは何かという問いへの答えの一つに、長く生きられることという答えがあるように、100歳以上まで生きられる日本という国に生まれたことは素晴らしいことです。皆様は、せつかく100歳以上まで生きられる可能性があるこの日本で育てられるのですから、自分自身が最も生き生きとした生き方で一生をお過ごしになられればもっと素晴らしいと私は思います。

では、どうすれば生き生きと生きられるかといえば、こんなふうには自分は生きたいという夢や目的を持ったほうがよいと考えます。困難なことや挫折は何回もあるかもしれませんが、自分の夢や希望、目標に向かってコツコツと一步一步、自分なりのやり方や方法で努力、つまりいろいろな面での勉強を積み重ねれば、必ず充実した人生を全うできると考えます。

夢や希望、目標もなくただ毎日を仕方なしに過ごすのは、せつかく100歳以上まで生きられる可能性のある日本に育てているのに、あまりにも「もったいない」ことです。

Q：どのようにして、夢や希望、目標を捜したらよいのですか。

A：これまで世の中がどのように動いてきたのか、今世の中はどのように動いているのか、これから世の中はどのように動いていくのかを知ることです。世の中には、家族や学校、友達など身近なところから始まって、自分の住む街、県、日本、アジア、世界、地球、太陽系、宇宙と様々な世の中がありますので、その過去と、現在と、未来の動きがどうなるかについての質の高い「情報」を手に入れる努力をなさるとよいと思います。

Q：世の中の動きを知る質の高い情報は、日本ではどのようにすると手に入れることができますか。

A：1番よい方法は、新聞を毎日じっくりお読みになることです。小学生は20分以上、中学生は40分以上、高校生は1時間以上を目安に新聞を毎日じっくり読んで、なぜこのような記事や文章が書かれているのだろうと自分の頭でじっくりお考えになる習慣を身に付ける訓練を、気が付いた時か

らでもよいですからなさることを、私はお勧めします。

まずは興味のある記事や文章をじっくり読み、それらの中に何度も読み直したいと思うものがあつたら、家族の人が読み終えた昨日の新聞から「切り抜き」をスタートします。(家族に頼んで、昨日の新聞を切り抜き用にプレゼントしてもらおうとよいでしょう。「切り抜いたあとの新聞」は、「リサイクル」用に保存し、「リサイクルの日」にはお手伝いの一つとして自分で出せば、家族からも喜ばれます。)

野球やサッカー、バレーボールに興味があつたら、それらに関する新聞記事はなめるように毎日読み、気に入った写真や記事は、家族の許しを得た上で、日付を書いてきれいに切り抜き、何回、何十回も読み返してみます。

そして、好きなスポーツのページだけでなく、少しずつ別のページにも目を通し、「知的好奇心」をそそるような記事や文章があつたらじっくり読んでみます。すると、そのうちに、「健康」について、さらに言えば「病気」になったらどうするかについても、新聞はこんなにも分かりやすく丁寧に説明してくれているのかということが、じっくり分かってくるでしょう。

新聞をじっくり読むと、自分の住む街の特色、よいところ、そこに住む素晴らしい人々の活動についても知ることができます。また、^{どうしよらん}投書欄に目をやると、一つについていろいろな^{せだい}世代の人が、様々な意見を述べ合っていることも分かります。さらには、人口が少しずつ^{げんしよ}減少し始めた日本のこの社会をどのようにしたらよいか、日本の歴史始まって以来の^{かいかく}改革について、ありとあらゆるところで議論され始めたこともお分かりになると思います。

最近景気がよいと言われている中国も、それは海に近い一部だけのことで、大陸の中に入れば入るほど困難な生活をしている人も多いこと。鳥インフルエンザはどのように広まり、どのような影響を日本にも及ぼそうとしているか、あるいは日本で広まった場合にどうしたらよいか。これから進学しようとしている高校は、大学は、大学院はいったいどのように変わっていくのか。希望する職業に就くにはどのようにしたらよいか。会社や役所はこれからどうなるのか。家族での過ごし方や老後の過ごし方はどのようになるのか。これら様々なテーマで、日本国民と世界の人々の将来の幸福な生活を考え各新聞社が全エネルギーを傾けて毎朝、毎夕発刊し続けているのが、日本の新聞です。

新聞を毎日一定時間以上じっくり腰を落ち着けて読み、考える習慣を身につけることで、時代を感じ取る力(時代感覚)を磨き込み、その中でどのような人生を送ったらよいかをお考えになって頂きたく希望いたします。

今回はここまでにさせていただきます。